

【小学校の部】最優秀賞（大分県教育の日推進会議会長賞）

## 私は魔法使いになる

別府市立上人小学校 5年

廣畑さくら



「おはよう」と、ニコニコしながら笑いかけてくれる近所のおねえちゃん。そんな姿を見て、「あんなふうにニコニコしながらあいさつが出来るといいね。」と小さい頃の私に言ったお母さんの言葉で「私もおねえちゃんみたいになりたい」と思ったのを今でも覚えている。

だけど、なんだかはずかしくて大きな声が出ないし、ニコニコなんてできない。簡単だと思っていたあいさつは意外と難しく、自分から先になんて言えなかった。

でも、あこがれのおねえちゃんに自分から「おはようございます。」と言えた朝、ニコツとして「おはよう。かわいいね。」と言われたことがうれしかった。「こんなふうに笑ってあいさつするとかわいいって思ってもらえるんだな」と、自信になった気がした。おばあちゃんが、「女の子は笑顔のかわいい子が一番だよ。」と言っていたこともあって、笑顔で自分からあいさつをすることが私のポリシーになっていった。

それからは、毎日笑顔であいさつをするとごほうびがもらえた。「すごいね」「今日も元気だね」「えらいね」そんな言葉は私にとって、毎日のエネルギーになるごほうびだった。気分がよくなる魔法を自分で作れるあいさつは本当にすごい。

「近所の人からきちんとあいさつ出来てえらいって言われたよ。」と、家族もそのことで私のことをほめてくれた。家族からもほめてもらえるあいさつは、やっぱりすごい。

学校でも、気持ちのいいあいさつをすることが全校の目標になっている。登下校中でも学校でも会う人みんなにあいさつをする。だけど、何度あいさつをしても、返してくれないお兄さんがいた。みんなあいさつをして笑顔になってくれると思っていたから、びっくりした。あいさつの魔法が通じない人がいるなんて…。それでも、私はそのお兄さんにあいさつをする。毎日、毎日。「今日もダメだった。」「今日も」こんな日が、しばらく続いた。でも、とうとうその日がやってきた。私の「おはようございます」に小さな声で「おはようございます」って。やっぱりあいさつは魔法だった。

知らない人に話しかけてお互いが気持ちよくなれるなんて、あいさつだけだ。そのあいさつという魔法を使って、みんなを笑顔にしたい私は、魔法使いになる。

私は、自分が気持ちよくなりたいだけなのかもしれない。もしかしたら、ただほめられたいだけかもしれない。だけど、あいさつのパワーは無限だ。相手の体調や気分がわかったり、友だちになれたり、お互いがいい気持ちになれたり。

私は、今日も笑顔であいさつの魔法をかける。これが、私が続けてきたことで、これからもずっとずっと続けていくこと。